



幾度の危機を越えて未来へ続く
技術と努力の軌跡

「アズ式金属プレス加工技術」
有限会社 アズ池田



現在葛飾区内に残っている
プレス工場は
多くありません
アズ池田はその貴重な
ひとつです

創業してすでに
五十年以上の歴史が
ある会社です



昭和43年
池田製作所として
墨田区立花の地に創業

ただ
現在までの道のりは
決して平坦では
なかったんだ



最初の五年ほどは主に
ライターの部品を
作っていたんです

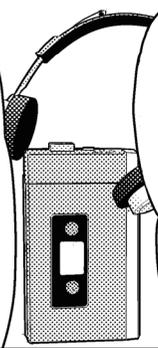


それが
使い捨てライター
の登場で一気に
需要が冷え込み
最初の危機に陥った



昭和50年
100円使い捨てライター
販売開始

しかしやがて
ヘッドフォンステレオが
登場すると



昭和54年
最初の「ウォークマン」
登場

その駆動部の部品の製造を
大量に引き受ける事が
できるようになりました

他所ではあんなに多かった
不良品が
おたくではまったく出ない
何故なんだ？



メーカーの人

こうしてさらに
小型ビデオカメラの
部品の製造なども
請け負うようになりー

また一気に
業績が上がったのです



そして昭和六十年
現在の地に移転



高い技術のおかげで
危機を乗り越える
ことができたので
ござるよ



順風満帆かと思われた
矢先



ええっ
なんだって



今後は規模を縮小して私の代かぎりです閉めることにしようか…

このまま続けてもこの先良い材料は無い…



取引先の会社がいきなり倒産！

やがてバブル経済も弾け国内の製造業は次第に海外に移り近隣のプレス工場も次々と姿を消してゆきます



まあ子供の頃から工場に居ていざ継ぐのが当たり前前みたいに思っていましたから

正博氏はあえて事業承継の道を選びます



というわけでお前は工場を継ぐ必要はない

今の会社であれば安定した生活が出来るだろうし

—しかし

いや父さん僕は継ぐよ



どんどん新しい事をやっていくんだ

お前は金型から作れるようになれ

そうか…けれどそれならば俺と同じ事をしていただけじゃ駄目だ

この工場を継ぎたい

やるならば
前へ前へと…！

正博氏は技術習得のため
勤務していた
ステンレス製品メーカーから
金型製作会社へと転職

盆も正月も返上した
徹底した研鑽の末
通常十年はかかると言われる
技術習得を半分以下の
四年でクリアしてみせたのです

コンビーフ缶巻取り器の
簡単な製造過程イメージ

最初は金属の丸棒

2. 曲げてコの字型を作り

1. 平たく潰し

3. 切断し

4. 穴を開け

5. また曲げて輪の形にし

6. 送り出して排出

これをひとつの金型で
品質を担保しつつ
一分間に七十個以上
生産可能にする…



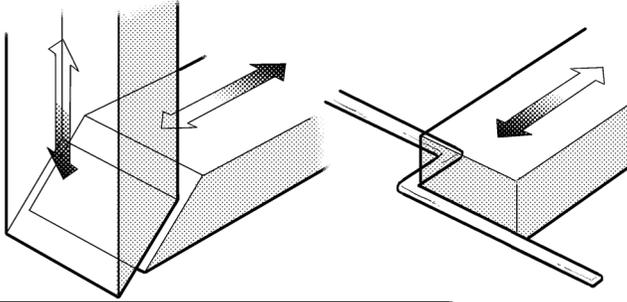
平成17年

そしてアズ池田に
正式に入社した正博氏を
待っていたのは
大きな課題でした

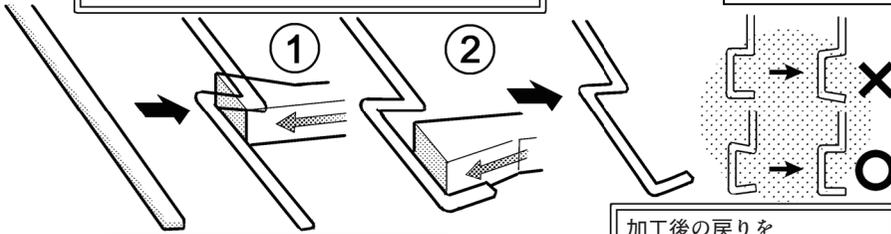
コンビーフの
巻取り器？

色々あって…
やってくれる所を探してる
池田さんならどうかして
くれるんじゃないかと…
お願いします！

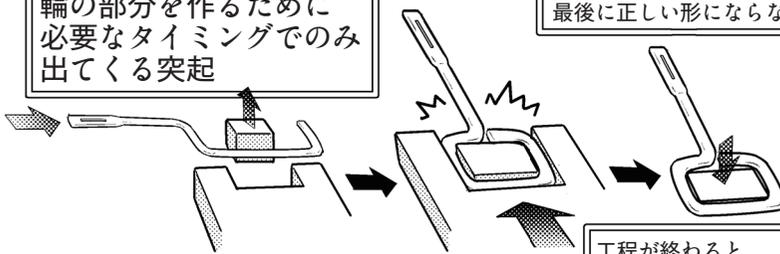
プレス機の上下運動を
曲げ時に必要な横方向の動きに変換



精度向上のため、ひとつの工程を
時間差のあるふたつの工程に



輪の部分を作るために
必要なタイミングでのみ
出てくる突起



加工後の戻りを
計算に入れて加工しないと
最後に正しい形にならない

これらのタイミングはすべて
カムと呼ばれる装置で
機械的に制御

工程が終わると
引っ込んで面一に戻る

排出過程に

完成した金型は
独自の発想で多くの課題を
ひとつずつクリアした
かつて例のないものでした

設計開発だけで半年を要し
また設備投資も必要で
またしても
経営は苦しくなりました



よし
これで大丈夫だ

が、しかし



社名の「アズ池田」の
「アズ」はAからZまで
という意味を持たせた
ものなんだ

はじめから
A
Z
おわりまで

難産の末生まれた私
コンビーフ缶の巻取り器でしたが
いざ生産が始まるとその数は
月に九十万個を超え
またしても経営危機を
脱することができたのです

現在私の生産はもう
終了してしまいましたが

それが切っ掛けで
僕たち缶切りの注文が
大量にきて
今でも続いているんだよ!





拙者

カンカムハンガー!

そしてそれが形となった
例のひとつが



こんな感じの
ものが欲しいの
ですが…

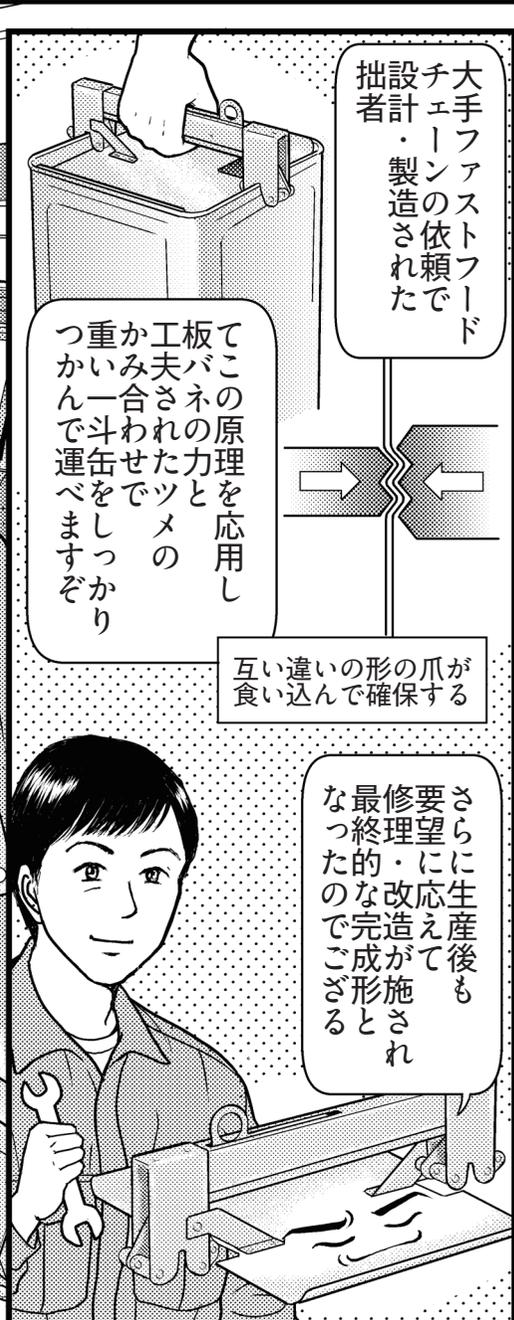
ならば
こういう物は
どうでしょう

ただ注文を受けて
製品を製造するだけでなく
お客様の要望により
その前の企画・設計の段階から
アフターケアまでおまかせ下さい
そんな思いが込められているんだね



何度か危機に陥りつつ
そのたびに柔軟な発想と
高い技術
そして真摯な対応で
乗り越えてきたアズ池田

これから
お客様とのタッグで
優れたユニークな製品を
たくさん生み出してゆく
ことでしょう



大手ファストフード
チェーンの依頼で
設計・製造された
拙者

てこの原理を応用し
板バネの力と
工夫されたツメの
かみ合わせで
重い一斗缶をしつかり
つかんで運べますぞ

互い違いの形の爪が
食い込んで確保する

さらに生産後も
要望にこたえて
修理・改造が施され
最終的な完成形と
なったのでござる